



佐々先生の 海外・帰国 あれこれコーナー

このコーナーでは、いろいろな立場の人たちの声を聞きながら、特に海外に住んでいる保護者の方々に役立てていただける情報や、参考になる考え方などを提供していきます。

取り上げてほしいテーマ、ご意見、ご感想などをお知らせください。皆様の声を聞きながら、このコーナーをできるだけ実際に役に立つものにしていきたいと思っています。連絡は、Eメールで、sasa@keimei.ac.jp までお願いいたします。

啓明学園中学校・高等学校 校長 佐々 信行（さっさ のぶゆき）

ハンブルク補習校、帰国子女受け入れ担当（横浜市）、日本語イマージョン・プログラム教諭（バージニア州）・ワシントン補習授業校を経て、現職。

環境が育てる

先日、アメリカでハイスクールのドロップアウトの問題に取り組んでいる NGO の方とお話しする機会がありました。ご承知のとおり、ドロップアウトは、犯罪や家庭の崩壊に深く関わっていて、大変深刻な問題です。その人は、ある地域が、青少年が成長する環境としてどれだけ悪くなっているかを話してくれました。アメリカで、通学区域が変わると不動産の値段が大きく変わるという話はよく聞きますが、もっともなことです。

とはいえ、「孟母三遷」の話のように、自由に住む場所を選べるのは、よほど幸運な場合でしょう。また、環境を思うようにコントロールするわけにもいきません。でも、その環境からどんなことが学べるのか、その環境でどんな力が育てられるのかを考えて、子どもたちを応援することは、大人にできることです。

◆ 生活の中で

「気持ち」や「態度」のようなものは、言葉で教え込むことは難しく、環境によって育てられることを期待しなければなりません。「使う言葉や肌の色、国籍などによって分け隔てすることなく人に接するべきである。」ということは分かっています。

も、いろいろな人種の同級生がいるような環境で育てられなければ、無用な緊張や理由のない偏見から逃れることは非常に難しいものです。啓明学園の子どもたちは、どんな国から来た人ともすぐにリラックスして交流ができますが、この感覚も、海外とつながりの深い人たちが多く、年中外国からの訪問者がある環境によって育てられていると見ることができます。卒業生が、進学した先で、同級生との感覚の違いに驚くこともあるようです。

この点では、いろいろな民族が混じって暮らしているアメリカで生活する子どもたちは、恵まれていると言えます。

逆に、アメリカのような環境から帰国した生徒たちは、日本の電車の中に髪の毛が黒い人ばかりがいるのに異様な感じがすると言います。世界の中での日本の社会の特徴をこの人たちは直感的に感じ取っているということにもなるでしょう。

言語の力も、環境に育てられる面が強く、年齢が低いほど、「授業」の形で言葉の力を伸ばしたり、維持したりすることは難しいようです。小さな子どもたちの場合は、その言語を使う環境から離れると、今まで自然に口から出ていた言葉が出てこなくなったりします。その代わり、新しい言語環境に慣れるのも早いのです。

小学校高学年から中学生ぐらいになると、生活の中で使っていない言語でも、「外国語」という形で学習し、読み書きや、会話の力をつけていくことができます。論理的に物事を理解する力や、想像力や、学習しようとする意欲などがそれを可能にすると考えられます。

◆ 作品や行動に

啓明学園では、毎年校外のギャラリーで「図工・美術作品展」を開きます。啓明の生徒たちの作品には、心を和ませてくれるものが多いと、毎年楽しみにしてくださる方もあります。作品には、作者たちの生活がどことなく表れてくるのです。



美術展